



動かないけど大活躍！

宜野湾市にきた電車たち

みなさんは、かつて宜野湾市に電車があったことをご存じでしょうか？中には記憶にある方もいらっしゃるかも知れません。

実は、現在の市役所敷地内に、北九州で実際に運行していた路面電車の車体が屋外展示として、1980(昭和55)年11月に、設置されました。当時は、まだモノレールもない時代なので、市内外の子どもたちに、教材用として実物の電車を見てもらおうということでの設置となり、「ボギー」という愛称も付けられました。

このボギーが市役所に来るまでには苦労もあつたようで、九州から沖縄に移動させるだけでも大型トレーラーやカーフェリーなどを利用し、沖縄に着くと



▲市役所前に展示されたボギーを見学する子どもたち
1980(昭和55)年

パトカーが先導し、交通整理をしながらようやく市役所にたどり着きました。

その後、市役所で展示されると、市内の子どもたちを中心に多くの見学者が訪れ、初めて見る本物の電車に目を輝かせていたようです。こうしてボギーは子どもたちに感動を与えてきましたが、沖縄の潮風の影響などから車体が劣化したことで撤去されその役目を終えました。

また、ボギーとは別に、1986(昭和61)年には海浜公園にも新幹線の展示がされましたが、こちらも海からの潮風を受けて劣化が進んだことなどにより、その後は撤去となりました。しかし、この新幹線が設置されていた広場は、今でも「電車広場」という名前での名残りが残っています。

現在はモノレールも日常の風景となりましたが、かつて、動かなくとも、本物の電車を見て感動した子の中には、将来の夢へと繋がった子もいたのかも知れません。



▲海浜公園の電車広場に設置されていた新幹線こだま号
1986(昭和61)年

問 市立博物館

☎ 870-9317

はくぶつかんの部屋

市立博物館
イメージキャラクター
天女ちゃん



68

多岐にわたる博物館のお仕事

博物館の仕事は、「博物館法」という法律に基づいて取り組んでいます。

その内容は、①資料の収集・保管 ②調査・研究 ③展示公開・教育普及があります。寄贈や収集で受け入れた資料の来歴や使い方等の情報を、収蔵品台帳カードに記録します。そして類似資料との比較等の調査、研究を行い、その成果が企画展や市民講座などを通して市民の皆さんへ公開、普及に至っています。当館では年間、企画展を7〜8回、市民講座を15回、児童の体験教室を12回、その他、学校への学習支援として社会科見学や出前講座を行っています。また、施設の維持管理もあります。

ここまでは、この博物館も行っていましたが、当館では、本市の歴史や文化等を調査して『宜野湾市史』としてまとめる市史編集業務も行っています。さらに市役所で保存年限



▲企画展「お金で世界を感じ展」

問 市立博物館

☎ 870-9317



▲市民講座「嘉数高台周辺の戦跡めぐり」

を終えた公文書の中から、歴史的に資料価値のある文書を「歴史公文書」として収集・保管し、ときには公開を行う公文書館的な役目も担っています。この市史編集や歴史公文書の情報を活かして企画展や講座を開催するなど博物館と市史編集の特徴を運動させた取り組みは、他市町村ではそう多くありません。

企画展や講座は、その期間、その時間の開催ではありますが、そこに至るまでの企画、関係機関や講師との調整、現地確認、他館との資料借用調整、展示設営、広報など、結構な時間を要しますが、その姿は、表からは見えません。しかも、各担当者が二つ、三つの事業を同時並行に進めています。効率よく進めるには、計画性や段取り、調整力が重要であり、コツコツと積み上げた成果が催しの開催に繋がっているといえます。今後とも市立博物館の業務へのご理解をよろしくお願いいたします。